

環境掲示板

バックン小物入れ(小銭入れ)作り

主催：ごみ対策課

日時：平成23年10月26日(水)

午後1時から3時

場所：三鷹市リサイクル市民工房

対象：特になし

定員：8人

(申し込み多数の場合は抽選)

料金：無料

申込先：10月18日(火)必着で申し込む

問合せ：ごみ対策課(内線 2534)

Tシャツからルームシューズ作り

主催：ごみ対策課

日時：平成23年11月24日(木)

午後1時から3時30分

場所：三鷹市リサイクル市民工房

対象：特になし

定員：8人

(申し込み多数の場合は抽選)

料金：無料

申込先：11月15日(火)必着で申し込む

問合せ：ごみ対策課(内線 2534)

Tシャツからエコ布ぞうり作り

主催：ごみ対策課

日時：平成23年10月27日(木)

午後1時から3時45分

場所：三鷹市リサイクル市民工房

対象：特になし

定員：10人

(申し込み多数の場合は抽選)

料金：無料

申込先：10月17日(月)必着で申し込む

問合せ：ごみ対策課(内線 2534)

環境映画上映会「OCEANS(オーシャンズ)」

主催：三鷹市

日時：平成23年12月3日(土)

午後0時30分開場 1時開演

3時終了予定

場所：三鷹駅前コミュニティセンター

対象：特になし

定員：120名(先着順) 料金：無料

申込先：当日の正午より、会場にて入場整理券を

配付

問合せ：環境政策課(内線 2525)

編集後記

今回のテーマは地域の人に対する「思いやり」です。身近な環境は個人から地域への関心に広がっています。例えば路上のごみや落葉を拾い、賞味期限直前の食品を優先的に購入する人が増えています。

前号の節電は官民一体の努力と気候も味方して達成です。ありがとうございました。(中野)

発行：みたか環境活動推進会議

(愛称 みんなの環境)

連絡先：三鷹市環境政策課

電話 0422-45-1151 内線 2523・2524

E-mail:kankyo@city.mitaka.tokyo.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。

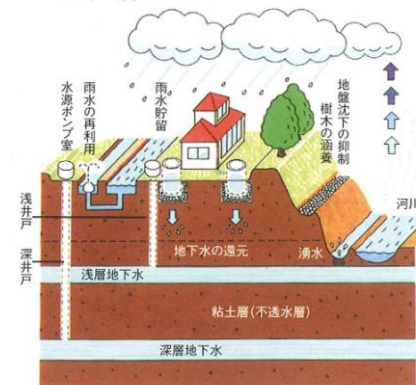
みたか環境ひろば 第37号

平成23年10月1日発行

水循環

四方を海に囲まれ一年を通して雨が降り、争う国際河川もない日本ほど水に恵まれた国も珍しいといわれます。雨水も一つの貴重な資源であるという観点から水循環復活のための事業や活動が各地で行われています。三鷹市でも住宅での「雨水浸透ます」「小型雨水貯留槽」の設置や、道路下の「道路雨水貯留浸透施設」の設置、公共施設や事業所についても同様の指導がなされています。

▼地下水・湧水のイメージ



昔は田畑が広がり土や緑が多かったので雨水は地面にたくさんしみ込み長い時間をかけて海に流れていました。地下水や湧水も豊富にありました。現在は地球温暖化による気候の変化に加え木々や地面の減少といった都市化の二つの相乗効果によりあちこちで予測のつかない水害が起き急速に私達の生活を脅かしてきています。三鷹市でも宅地の増加と緑の減少が続いています。

浸透施設の設置はもちろんのことその維持管理も水循環において大切な役割を果たしています。道路下や大掛かりな施設の点検や掃除は市が定期的に行っていますが、私達市民が身近にできる工夫として雨水がスムーズに流れるよう自宅浸透ますの浸透口やといのつまり、周辺道路の排水口や側溝のごみや落ち葉を普段からこまめに掃除しておくことも有効です。また、樹木には水を留める力がありCO2削減にも効果的で落ち葉を単なる邪魔者扱いにはできません。

食糧における「地産地消」は耳にしますが、原発事故をきっかけにエネルギーにおいても地域で自立した獲得システムを作る動きが起きています。移動エネルギーを少なくして持続可能な地域にするためには当然その土地にあったやり方があります。世界中で経済ネットワークが急成長している中で、地域の住民がより良い暮らしについて考え自治体と地道に行動することは成熟した社会を持つ先進国の宿命にすら思えてきます。地域を自立させるべく緑を守り水資源を循環させていくことは確実に安全安心で豊かな三鷹の暮らしへとつながっていくことでしょう。(入江)

ちびっ子農園と微生物

三鷹市には東部と西部にちびっ子農園があります。ここでは毎週日曜日の午前中だけ28家族のお父さん、お母さん、ちびっ子達が自転車を連ねてやってきます。子供中心に畑を耕し、種をまき、収穫します。小さな水たまりで泥んこになる子、どろ団子をいっぱい作る子、昆虫を採る子と賑やかです。私は西部農園に参加して数十年、子供達も成長して、その子供も三鷹市に住んで農園に参加をしています。秋になると特に忙しくなります。

西部農園の近くには国際基督教大学、ルーテル学院大学の大きな森があり、落ち葉掃除の人に頼っておきますと、袋につめたのをいくつももらうことができます。有機農法ですから落ち葉はいくらあってもだいじょうぶです。農園の一か所に囲いをして、もらった落ち葉をせっせと積み重ね、囲いの下の方には昨年入れた落ち葉が腐葉土になっていますから、空気を入れながら下の腐葉土をかきだして、これから植える秋野菜(カリフラワー、ブロッコリー、キャベツ、大根)の栄養にします。

野菜を植える畝が決まったら30cm程掘り下げ、その中心に腐葉土を敷き、米ぬか、もみがらを入れて土をかぶせ、土をもりあげて畝の上に野菜苗を植えます。土の中では微生物(※)が栄養素をどんどん食べて有機物をつくり出します。土がぼろぼろになってみずがわき、土がやわらかくなって野菜の根をよく発達させてくれます、一年を通じて季節の野菜、ジャガイモ、キャベツ、ナス、ピーマン、きゅうり、トマトとたくさんの野菜が実をつけてくれます。とくに子供達がじゃがいも掘りの日、土の中からごろごろ出てくる大きなじゃがいもに目を輝やかし、歓声をあげるのを目の当たりにすると大人達も楽しくなります。(小林)



※微生物とは
肉眼では観察できない
きわめて小さな生物。通常、酵母、原生動物などを指すが、ウイルスをふくめたり、場合によって多細胞の藻類までふくめたりすることもある。

スポーツ GOMI 拾い三鷹大会 in みたか商工まつり

7月17日、みたか環境活動推進会議と日本スポーツ GOMI 拾い連盟 武蔵野大学 チーム共催のスポーツ GOMI 拾い大会(協力:三鷹商工会)をみたか商工まつりで開催しました。



1チーム4~5名、多摩青果市場跡地の周辺地域で競技時間45分間に集めたごみの重量をポイントに換算して競いました。小さなお子さんからご年配の方まで総勢53人、12チーム。炎天下、大粒の汗を流しながら、みなさんが集めたごみの総重量はなんと74.7キロ!!表彰式のあとのみなさんの爽やかな笑顔をご覧ください(写真)。

武蔵野大学の学生6名が準備と運営を担当。終始ハツラツとした笑顔が素敵でした。「参加者とスタッフが一丸となって運営できたことが嬉しかった。もし次回の大会を開催するなら、今回を超えるような大会にしたい」と学生からの頼もしい感想も。今後の活躍も大いに期待したいですね。(竹上)

三鷹のみち「むらさき橋」むらさき橋通り

「むらさき」は三鷹市のイメージカラーです。「むらさき橋」は玉川上水(風の散歩道)とむらさき橋通りの接点にあり、木の温もりが感じられる橋である。橋の袂に設置された同橋の由来には武蔵野の紫草(むらさき)について詠まれた古今和歌集の歌と紫草で染めた「江戸紫」にちなんで命名されたと記入されている。

このあたりは1657年1月に起きた江戸の明暦大火で幕府の命令により神田連雀町の被災者の代替地として連雀新田が開拓され、染料に使う紫草の名産地であった。紫草はムラサキ科の多年草であるが、現在では環境省の絶滅危惧種に指定されている。紫草はドイツ語で「ボラギノール」と呼ばれ薬用としても使われていた。紫草の復活に願いを込め、牛乳パックから手漉きで作られたむらさき色の名刺や封筒等が作られている。(中野)

